

令和6年(2024年)度 学校自己評価システムシート (私立 春日部共栄中学校)

令和7年3月29日(土)

<学校関係者評価委員会>

《目指す学校像》 全人的人間の育成という精神を基礎として、知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性を育み、社会の発展に寄与する有能な人材を養成する。

※達成度：A=充分達成できた B=概ね達成できた C=変化の兆しが見られた D=不十分であった

協議委員(学校関係者)7名

内部委員(教職員)9名

評価項目(目標)	具体策と評価指標	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者評価・要望等
① 「至誠一貫」の精神に基づいた基本的な生活習慣の確立と道徳教育	a 声を出してきちんと挨拶ができるようになるための指導 →学校生活アンケート設問1で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問1で①②の回答率80%以上 b 公共の場でのマナーや周囲への配慮についての指導 →学校生活アンケート設問2で①②の回答率80%以上 c 相手の立場に立って考え、行動できるようにするための指導 →学校生活アンケート設問3で①②の回答率90%以上 →学校自己評価アンケート設問2で①②の回答率90%以上 d 日常的な時間管理、自己管理の指導 →学校生活アンケート設問4,5で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問3で①②の回答率80%以上 e 多面的、多角的、対話的な「道徳」の授業の実践 →学校生活アンケート設問6で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問4で①②の回答率80%以上 f スマートフォン、SNSの適切な活用 →学校生活アンケート設問7で①②の回答率80%以上	a 挨拶についての①②の回答率 生徒93%、教員86% b 公共のマナーや周囲への配慮についての①②の回答率 93% c 相手の立場に立って考え行動することについての①②の回答率 生徒91%、教員81% d 日常の時間管理・自己管理についての①②の回答率 生徒87%、教員71% e 道徳の授業についての①②の回答率 生徒87%、教員76% f スマートフォン、SNSの適切な活用についての①②の回答率 82% 中学3年生に限っては、①②の回答が70%を下回っている。	B	・前向きに挨拶をする生徒が増えていることが伺える。校内外を問わず、公共のマナーや規範意識の向上は、依然きめ細かな指導の必要性を感じる。生徒自らが気付き、生徒同士が互いに声を掛け合えるよう自治活動を充実させていきたい。 ・時間の順守については昨年度より数値が改善している。教員の意識向上が生徒へよい影響を与えており、その姿勢を継続していきたい。 ・持ち主不明の落し物が多くあった。持ち物への記名の推奨や、落し物展示等、折に触れて物の大切さを訴える機会を増やしたい。 ・スマートフォン、SNSの適切な活用は現代の生活指導から切り離せない。今年度実施した弁護士を招聘しての講演会やこまめな学年集会等を継続し、厳しくかつきめ細やかに、低学年時よりブレのない指導を徹底していきたい。	・犯罪の若年化を鑑み、生徒の社会性をどのように育ませるか、学校教育の役割は一層増している。「結果(問題)があるところに原因あり」その原因をしっかりと分析し、解決へつなげられるよう、親身に生徒とかわる時間を増やしてもらいたい。 ・生徒の自己肯定感を高めていけるよう、ボランティア活動、自治活動の課題を
② 奉仕の精神の育成と自治活動の実践	a 日常的な清掃活動への取り組み →学校生活アンケート設問8で①②の回答率90%以上 →学校自己評価アンケート設問5で①②の回答率90%以上 b 状況に応じたボランティア活動、自治活動への取り組み →学校生活アンケート設問9で①②の回答率70%以上 →学校自己評価アンケート設問6で①②の回答率70%以上	a 清掃活動についての①②の回答率 生徒96%、教員76% b ボランティア活動、自治活動等についての①②の回答率 生徒49%、教員81%	B	・生徒の清掃への意識は高まっている。清掃のポイントや役割分担を明確にし、生徒教員間の意識の差を埋められるよう努めたい。 ・生徒が身近なものから始められるよう情報の提供や快音等を通じて参加者を紹介するなど、ボランティア活動参加への心理的な障壁を下げる工夫をしていきたい。	分析共有し、情報の発信やプログラムの開発に努めてもらいたい。 ・保護者とはよく連携が取れている様子。学習面や生活面のポジティブな側面も積極的に情報交換ができるように心掛けてほしい。
③ 保護者との連携	a 保護者との日常的な意思の疎通 →学校自己評価アンケート設問7で①②の回答率80%以上 b 保護者の意見に耳を傾け、期待に沿えるような努力 →学校自己評価アンケート設問8で①②の回答率80%以上	a 設問7の①②の回答率 95% b 設問8の①②の回答率 91%	A	・保護者とは良好なコミュニケーションが図れている様子。保護者会、面談、説明会への参加率も高い。来年度は10月に授業参観、クラス懇談会を新たに実施する。	
④ 学力向上を目指した各種取り組み	a 生徒個々の学習到達度を踏まえた補習等の実践 →学校自己評価アンケート設問9で①②の回答率80%以上 b 授業、宿題、課題への取り組み →学校生活アンケート設問10,11で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問10で①②の回答率80%以上	a 補習等の実践についての①②の回答率 76%(昨年比-13%) b 宿題課題の取り組みについての①②の回答率 生徒72%、教員79%	B	・大半が授業には前向きに取り組んでいる一方、課題や家庭学習に苦勞している生徒も多い。内容の精査やレベルを踏まえた段階的な課題の提示等、生徒がより達成感を得られるようなものにしていく工夫も必要だろう。	・コース別活動が定着し、生徒の学習意欲が増しているように見受けられる。高校入学後のプログラムや大学入試へどのようにつなげていくか、今後の取り組みに期待したい。
⑤ 授業や各種試験への取り組み	a 授業や各種試験、学習への取り組み →学校生活アンケート設問12,13,14,15で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問11,12,13,14で①②の回答率80%以上	a 学校生活アンケート①②の回答率 設問12 49% 設問13 60% 設問14 65% 設問15 73% 学校自己評価アンケート①②の回答率 設問11 90% 設問12 79% 設問13 79% 設問14 84%	B	・家庭学習の定着は依然として課題である。自学自習管理ツールの活用や面談を通して生徒の学習意欲の向上に努めたい。一方、学力推移調査では3年連続1年生の数値の伸長が見られ、低学年時の学習指導は一定程度達成できている様子が伺える。	・ICT環境が進んでいくのは必然。教員側のスキルアップも求められている。
⑥ コース別活動、リーダーズプログラムの実践と有効活用	a コース別活動の充実 →学校生活アンケート設問16で①②の回答率80%以上 b 「ワールドビュー」充実のためのはたらきかけ →学校自己評価アンケート設問15で①②の回答率70%以上 c リーダーズカリキュラム、リーダーズプログラムの取り組み →学校生活アンケート設問17で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問16で①②の回答率80%以上 d 各種検定試験、コンテスト等への積極的な参加とはたらきかけ →学校自己評価アンケート設問17で①②の回答率80%以上 e Chromebookの有効活用 →学校生活アンケート設問18で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問18で①②の回答率80%以上	a コース別活動の充実について①②の回答率 81% b 「ワールドビュー」充実について①②の回答率 53% c リーダーズカリキュラム、リーダーズプログラムについて①②の回答率 生徒76%、教員74% d 各種検定、コンテストへの参加についての①②の回答率 79% d Chromebookの有効活用についての①②の回答率 生徒91%、教員84%	B	・コース別活動については、大多数の生徒が興味関心を持っている。3学年コース別入学の生徒が揃い、内容も充実してきた。高校へのスムーズな移行と、更なる情報の共有、役割分担の徹底、内容の充実に努めたい。 ・「ワールドビュー」は新しいフォーマットに変え、生徒も意欲的に取り組んでいる。 ・国際教育活動は、今年度から「リテラシー」での研修も加わり、一層充実した内容となった。来年度実施される「イノバ」研修に向けて、一貫部とも協議を重ね、語学研修の域を超えた海外研修となるようプログラムの精査、運営の工夫に努めたい。	・SNS等の問題点も考慮し、PCやプログラミングの知識・技能の習得にとどまらず、倫理面(どう使うのか)の育成も意識した指導を大切にしてほしい。 ・企業訪問やリーダーズカリキュラム、国際教育等、この中学校の魅力や独自性を今後も一層高めていってほしい。
⑦ Webサイト等を活用した学校関係者への情報発信	a ホームページや保護者向け連絡システム(Blend)の有効活用 →学校自己評価アンケート設問19で①②の回答率80%以上 b 生徒出欠席の管理や生徒メモの活用 →学校自己評価アンケート設問20で①②の回答率80%以上	a 設問19で①②の回答率 89% b 設問20で①②の回答率 90%	A	・本年度より行事の写真販売も始めており、保護者がより学校の情報を得やすくなっている。内部だけでなくとどまらず、生徒募集の観点からも外部への本校の取り組みの発信も積極的に行っていきたい。	